

冬号

— 令和元年度 —

研究だより

附属光学園
山口大学教育学部附属光小学校・中学校

一貫教育において 求める子どもたち像

自己

生活を拓く
自己を活かす

知性

知を愛する

共生

共にある

6月28日(金)の研究発表大会では、たくさんの先生方に御参会いただき、ありがとうございました。

研究だより冬号では、そのときの様子をお伝えいたします。今後とも御指導御鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

お問い合わせ先 ▶ 〒743-0007 光市室積8丁目4番1号



小学校

TEL (0833) 78-0124 · FAX (0833) 75-1507
URL <http://www.hikari-es.yamaguchi-u.ac.jp>



← 小学校

中学校

TEL (0833) 78-0007 · FAX (0833) 75-1509
URL <http://www.hikari-jhs.yamaguchi-u.ac.jp>



← 中学校

小・中学校

URL <http://www.hikari-gakuen.edu.yamaguchi-u.ac.jp>



小学校



1年1組 国語科 住江 めぐみ
サイコロスピーチで
はなそう きこう

「話すこと・聞くこと」の単元では、「上手に話したり聞いたりしたいけれど上手くない」という思いから、問いをつかんでいくことがみえてきました。

小学校



5年1組 国語科 田中 章憲
新聞作りのコツとは？
～「新聞記事を読み比べよう」(東京書籍5年)～

写真を入れ替えたリライト記事から生まれた印象の違いを比較することで、問いをつかみました。書き手の意図を探り、述べ方を工夫するよさをまとめました。

中学校



1年2組 国語科 吉田 充寿
詩の世界
(光村図書1年)

読みを深める問いをつかませる際には、動機付けだけではうまくいかないため、着目すべき表現へと焦点化できるように丁寧に順序立てて導く手立てを取り入れました。

中学校



3年3組 国語科 作花 麗美
「月の起源を探る」
(光村図書3年)

「かつて否定された仮説をあえて述べるのはなぜか」という問いをつかむことで、順序という視点を蓄積できました。今後も蓄積すべき読みの視点を検討したいです。



社会科



小学校



3年1組 社会科 才宮 大明

こだわりの味のひみつを探ろう ～地域の生産～

光市発祥のカンロ飴を、「時間で比較」して生まれた「驚きの事実」から問いをつかみました。不易と流行をよみ、よりよい製品を目指す生産者の努力を捉えました。

中学校



3年2組 社会科 岩本 正信

持続可能な社会の実現にむけて ～高度経済成長が起こった要因を探る～

小学校3年生と中学校3年生ということもあり、問いや生徒の意見については、発達段階に応じて変化が見られるはずということ意識して、教材研究や発問の仕方、問いの投げかけなどを行いました。



算数科・数学科



小学校



4年2組 算数科 兼安 陽一朗

わり算使って「倍」搜索 ～倍のボタンでつなぐ割合克服カリキュラム～

長さの違う7本のカラフルな竹ひごの中から、3mのイルカと15mのクジラを表す竹ひごを探すことで、全員が「クジラはイルカの何倍か?」という問いをつかむことができました。

中学校

2年3組 数学科 中村 哲哉

式の計算

連続する整数の和でできない倍数はあるのか考える活動を通して、条件(考え方)を変えて試行する姿勢を身に付けさせることをねらいとして授業を行いました。式整理した形の違い(特に連続する数の個数で括れる場合と括れない場合との違い)に着目し、規則性を子ども主体で見出すことができました。



中学校

3年2組 数学科 竹坂 豊

式の計算 ～式は語る～

「式を読む」活動を通して、多様な考え方を見出すことをねらいとして授業を行いました。課題との出会いに必然性をもたせ、子どもたちが自ら「考えたい!」と思えるような授業づくりをしていきたいと思えます。



理科



小学校



3年2組 理科 赤星 冴

調べます! 附小の植物

～身の回りの生物～

協議会では、理科での「疑問」や「気付き」をどのようにして、問いへと変換させていくとよいかが話題に上がりました。つかませたい問いを明確にし、手立てを検討していきます。

小学校



6年1組 理科 宮崎 洸佑

月が欠ける!?

～月と太陽～

個々の考え方のずれをきっかけに問いをつかむことをねらいとしました。一人ひとりが、自分の考えにより思いを込められるような手立てや学習経験を工夫していくことが課題です。

音楽科



小学校



2年2組 音楽科 門田 集二

ひょうしをかんじてリズムをうとう

～「はしの上で」(フランス民謡)～

拍にのりながら4拍交替で自由にリズムを打つ「リズムバトル」を行い、拍感を高めました。前年度の2年生の「リズムバトル」を見せ、憧れをもたせて行いました。

中学校



2年1組 音楽科 金光 修一

カントリー風な曲の雰囲気 にふさわしい伴奏を創ろう

様々な楽器を用いて、カントリー風な伴奏のアレンジに挑戦しました。ギターや打楽器などでリズムを工夫することで創作が楽しいという思いを子どもにもたせることができました。



図画工作科・美術科



小学校



2年1組 図画工作科 池内 達也

とろとろのびのびスールスル!

～とろとろえのぐをつかって～

材料の面白さを十分に味わえるような場の工夫をすることで、思いや願いをもたせることができました。題材のつながりをどのように仕組んでいくのが課題です。

中学校



1年3組 美術科 曾根 唯之

平面構成 ～構成美の要素～

「日常にある風景写真を「構成美の要素」と関連付けて選びなさい」と問うと、自分とは違う思考と出会い葛藤します。そこで、観察に基づく体験を反復することで、事実(形や色彩)を根拠に考え話し合い、問いをつかみました。



体育科・保健体育科



小学校



4年1組 体育科 田中 歩

続けて!決めて!4の1ワクワク 光オープンテニス! ～ネット型～

テニスの学習では、規則をラリー制から得点制へと工夫することで、「得点を取るためには、どうしたらよいか」という問いをつかみ、今まで培った動きや学び方を生かし、課題解決に向けて意欲的に取り組むことができました。

中学校



1年1組 保健体育科 高木 菜満恵

体づくり運動

運動量はあったが、目的意識をどのようにもたせるかが大事であるという御意見をいただきました。体力向上の観点からも今回の活動を継続していきたいと思います。

技術・家庭科

小学校



6年2組 家庭科 坂本 真友香

6の2手作り工房オープン! ～楽しくソーイング～

大きさの異なる袋をエラーモデルとして提示することで「どのような大きさが相応しいのか」という問いをつかみました。不織布を用いて試行錯誤しながら大きさを検討し、ゆとりと縫いしろ分を考慮して大きさを決定する必要性に気付くことができました。

中学校



1年3組 技術・家庭科(技術分野) 瀬尾 優治

実生活で使う オリジナル製作品の製作

PDCA サイクルを可視化しながら試行錯誤を繰り返させ、段階ごとのつながりや意図したことが実現できたか考えさせることができました。

外国語科

小学校



5年2組 外国語科 西岡 祐子

紹介します! 5年2組!

～ She can run fast. He can jump high. ～

同じ人でも違う表現をするデモンストレーションから問いをつかみました。状況に応じて I, you, he, she を使い分けてインタビューしたり、友達を紹介したりしました。

中学校



2年2組 外国語科 梅田 彩味

友達の話の聞き上手になろう

～ Presentation3: 好きなこと～

好きなことについて話し合う活動を通して、互いの思いを即興で英語にして伝えることをねらいとして授業を行いました。聞き手は、短い英語で感情を伝えようとし、話し手も聞き手に対して質問するなど、相手が聞きたくする工夫を行っていました。

特別の教科 道徳

小学校



1年2組 道徳科 久保田 高嶺

わがままをしないうために
-「かぼちゃのつる」(学研教育みらい)-

授業の問いが子どものものとなるよう、子どもが教材に対して率直に感じたことを大切に授業づくりを行いました。課題追求の方法については、今後の課題です。

中学校



3年1組 道徳科 藤永 啓吾

調和のある生活
-「独りを慎む」(廣済堂あかつき)-

道徳科における学習内容や深い学びにつながる問いの在り方、問いが子どもから自然と生まれる指導方法を研究しています。

公開授業研究会のお知らせ

6月の研究発表大会では、多くの方に御参会いただき、ありがとうございました。たくさんの御意見や御助言を基に、研究を進めることができました。

研究発表大会での成果と課題をうけて、「問いのつながり」という研究の視点で公開授業研究会を行います。詳細はWebページにてお知らせします。また、申し込みはFAXにてお願いいたします。多くの方の御参会をお待ちしています。

日程

第1回	1月24日(金) 13:25~	公開授業Ⅰ	13:25~14:15
第2回	1月30日(木) 13:25~	公開授業Ⅱ	14:25~15:15
		研究協議	15:30~16:30

本会は初任者研修の対象となります。

発刊にあたって

～本学園の研究について～

1 目指す子どもたち像の共有とカリキュラム編成

「小中一貫校としての学校教育目標」の実現のために、各教科等で目指す子ども像を設定し、カリキュラムを編成しています。本学園は、小中施設一体型であり、これまでの小中連携研究の蓄積もあります。これらの特徴や歴史をふまえて、小中教職員が協働し、資質・能力、教材・配列、見方・考え方等で整理したカリキュラムを作成し、小中9年間を見通した教育を進めています。

2 「問い」をつかませる授業づくり

授業づくりでは、子どもたちが、「見方・考え方」が働く問いをつかみ、深い学びへと向かう授業の実現に小中で取り組んできました。今後は、各教科等で作成した小中一貫カリキュラムに基づき、単元における問いのつながりや深い学びに向かう問いの在り方等について、研究を進めていきます。

3 「知見共有型研究」の推進

研究を進める際には、全体論を立てて、その実現を各教科等で目指す「理論先行型研究」を改め、研究授業から見てきたことを語り合い、共有する「知見共有型研究」を推進しています。また、「研究授業の実施→結果分析の教職員間での共有→カリキュラムの見直し→研究授業の実施」というサイクルを、小中教職員でグループを組んで行っています。

冬号におきましては、上記の取組から見てきた成果や課題に言及しながら、各教科・領域ごとの内容を掲載しました。御一読の上、御意見や御示唆を頂戴できれば幸いです。皆様には今後とも変わらぬ御指導と御鞭撻を心よりお願い申し上げます。発刊の御挨拶とさせていただきます。